

2017年（平成29年） 5月19日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

4/27～5/10のNYMEX・WTIは45.52～49.33ドルと軟化し、40ドル台後半で推移した。

5月11日は、前日の米国原油在庫の予想を上回る在庫の取り崩し、サウジのアジア向け原油出荷の削減方針の報道、OPEC・非OPECの協調減産延長観測等、需給均衡への期待の高まりから、続伸した。6月限の終値は前日比0.50ドル高の47.83ドルだった。

週末12日は、引き続き、協調減産延長への期待が高まる中、この日ペーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が712基(前週比9基増)と、17週連続増加との発表があったが、わずかに値上がりした、6月限の終値は前日比0.01ドル高の47.84ドルだった。

週明け15日は、同日サウジのファリハ、ロシアのノバク両エネルギー相が北京で会談し、協調減産を7月以降も9ヵ月間延長することで意見が一致したとの報道があり、4営業日続伸した。6月限の終値は前日比1.01ドル高の48.85ドルだった。

16日は、OPEC監視委員長のマルズーキ・クウェート石油相がサウジ・ロシア合意支持の発言等、協調減産延長の機運が高まる一方で、前日までの反動から利益確定売りが広がり、5営業日振りに反落した。6月限の終値は前日比0.19ドル安の48.66ドルだった。

17日は、米国エネルギー情報局(EIA)週報の原油ガソリン在庫減少発表、対ユーロ・ドル安による原油の割安感から、反発した。6月限の終値は0.41ドル高の49.07ドルだった。

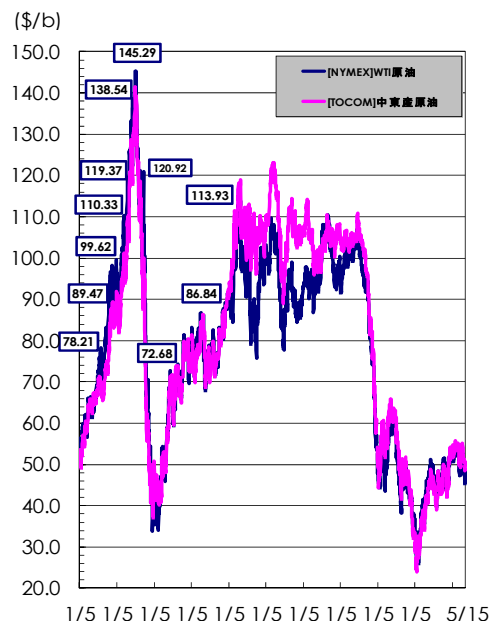
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(6月渡し)は、前々週・前週47.90～50.60と50ドルを挟んで揉み合った。5月11日は49.40ドル、12日は49.70ドル、15日は50.50ドル、16日は50.90ドル、17日は50.40ドルで推移した。

為替は、前週111.29～113.86円の範囲で円安に推移した。5月11日は114.26円、12日は113.94円、15日は113.43円、16日は113.77円、17日は112.60円で推移した。

主要元売会社の5月第4週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、据え置きから1.5円の値下げに分かれた。原油価格は値下がりし、為替レートの円安がやや相殺する形で、原油調達コストは値下がりした。

そのような中で、5月15日時点の小売価格は、ガソリンが0.4円値下がりの132.7円、軽油は0.2円値下がりの111.5円、灯油は0.1円値下がりの77.3円だった。ガソリン、軽油、灯油いずれも4週連続の値下がりだった。この週(5月第3週)の原油コストは値下がりし、元売の卸価格は据え置きから1.0円の値下げだった。

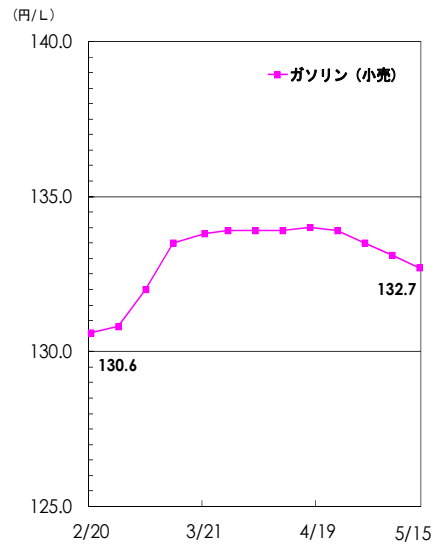
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/7 ~ 5/13	3,391 ▼ -47	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	86.6 ▼ -1.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	5/13	12,892 ▼ -856	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	5/15	50.58 ▲ 1.58	▲ 5.7
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	5/15	48.85 ▲ 2.42	▲ 1.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月中旬	53.77 ▼ -0.03	▲ 16.79
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	37,516 ▼ -348	▲ 11,636
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.91 ▲ 0.97	▲ 0.36
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/15	114.43 ▼ -0.69	▼ -4.60



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/7 ~ 5/13	989 ▼ -43	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	902 ▼ -238	▼ -	
	輸出	"	23 ▼ -23	▼ -	
	在庫	5/13	1,842 ▲ 65	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/9 ~ 5/15	48.3 ▼ -1.5	▲ 7.9	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/9 ~ 5/15	48.8 ▼ -0.4	▲ 6.5
		(TOCOM/中部)	5/15	48.2 ▼ -0.4	▲ 7.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/15	132.7 ▼ -0.4	▲ 13.9	

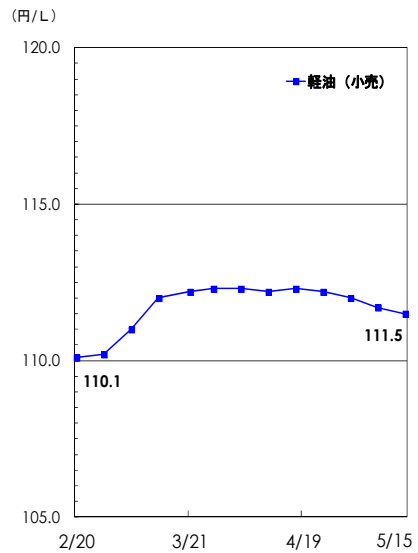
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

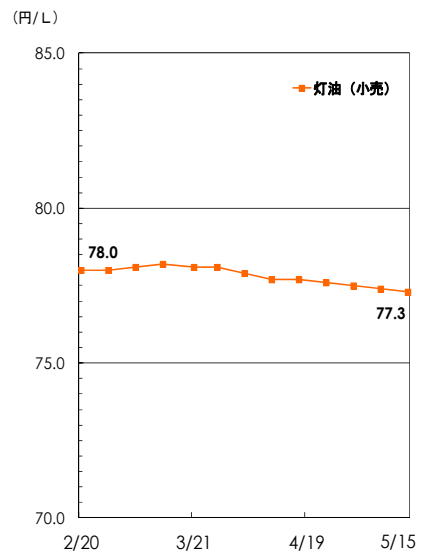
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/7 ~ 5/13	688 ▲ 5	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	558 ▲ 73	▲ -	
	輸出	"	176 ▲ 9	▲ -	
	在庫	5/13	1,675 ▼ -46	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/9 ~ 5/15	48.8 ▼ -1.0	▲ 12.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/9 ~ 5/15	48.0 → 0.0	▲ 9.7
		(TOCOM/中部)	5/15	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/15	111.5 ▼ -0.2	▲ 11.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/7 ~ 5/13	181 ▼ -23	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	145 ▼ -22	▼ -	
	輸出	"	0 → 0	→ -	
	在庫	5/13	1,184 ▲ 36	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/9 ~ 5/15	47.5 ▼ -1.1	▲ 11.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/9 ~ 5/15	45.7 ▲ 0.1	▲ 7.6
		(TOCOM/中部)	5/15	46.6 ▲ 0.6	▲ 10.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/15	77.3 ▼ -0.1	▲ 15.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

5月17日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の週報で、米国内原油在庫が市場予想(240万バレル減)を下回ったものの、180万バレル減少と6週連続で取り崩しとなったこと、また、機密漏えい疑惑でトランプ大統領の政権運営能力に懸念が広がる中、ユーロ高・ドル安の進行で原油先物に割安感が出たことから、買いが広がり反発した。6月限の終値は前日比0.41ドル高の49.07ドル、7月限の終値は前日比0.41ドル高の49.41ドルだった。

EIAによると、5月15日時点のガソリンの小売価格は前週比0.3セント値下がりの1ガロン2.369ドル(71.5円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比2.1セント値下がりの2.544ドル(76.8円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは4週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、5月7日～5月13日に休止したトッパー能力は35.8万バレル/日で、前週に対して3.3万バレル/日の増加(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は339.1万klと、前週に比べ4.7万kl減少。前年に対しては27.3万klの減少。トッパー稼働率は86.6%と前週に対して1.2ポイントの減少、前年に対しては0.3ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.1%減、ジェット/2.6%増、灯油/11.2%減、軽油/0.7%増、A重油/15.0%増、C重油/34.6%増。今週のC重油の輸入は15.4万kl(前週比12.8万kl増)。軽油の輸出は17.6万kl(前週比0.9万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比ではガソリン、灯油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではガソリン、灯油、C重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は90.2万kl(対前週20.9%減)と3週振りに前週比で、また2週振りに前年比で減少となり、2週振りに100万klを下回った。

ジェット12.0万kl(対前週19.8%増)、灯油14.5万kl(対前週13.1%減)、軽油55.8万kl(対前週15.1%

増)、A重油22.9万kl(対前週104.8%増)、C重油24.4万kl(対前週17.4%増)。

(単位:千KL)

	今週 (5/7 ~ 5/13)	前週 (4/30 ~ 5/6)	前週比
ガソリン	902	1,140	▼ -238 (-21%)
ジェット燃料	120	100	▲ 20 (20%)
灯油	145	167	▼ -22 (-13%)
軽油	558	485	▲ 73 (15%)
A重油	229	112	▲ 117 (104%)
C重油	244	208	▲ 36 (17%)
合計	2,198	2,212	▼ -14 (-1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月13日時点の在庫は、軽油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ガソリンのみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは184.2万kl、前週差6.5万kl増。前年に対しては1.4万kl多い。

灯油は118.4万kl、前週差3.6万kl増。前年に対しては23.4万kl少ない。

軽油は167.5万kl、前週差4.6万kl減。前年に対しては16.4万kl少ない。

A重油は82.3万kl、前週差1.2万kl減。前年に対しては0.8万kl少ない。

C重油は208.0万kl、前週差15.6万kl増。前年に対しては4.0万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (5/13)	前週 (5/6)	前週比
ガソリン	1,842	1,777	▲ 65 (4%)
ジェット燃料	1,092	1,056	▲ 36 (3%)
灯油	1,184	1,148	▲ 36 (3%)
軽油	1,675	1,721	▼ -46 (-3%)
A重油	823	835	▼ -12 (-1%)
C重油	2,080	1,924	▲ 156 (8%)
合計	8,696	8,461	▲ 235 (2.8%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月9日から15日までの原油コストは、原油価格はほぼ横ばい、為替レートは円安で、原油コストは値上がりが見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン101~102円台で軟化、軽油48~49円台で軟化、灯油46~48円台で軟化して推移した。海上スポット価格は、ガソリン100~101円台で軟化、軽油47~49円台で軟化、灯油45~46円台でやや値上がりした。先物価格は、ガソリン102~103円台でやや軟化、軽油48円台で横ばい、灯油45~46円台でやや値上がりした。元売の卸価格は、ガソリン・灯油は据え置きと1.5円の値上げに分かれ、軽油は据え置きから1.5円の値上げに分かれた。

た。

JXTGエネルギーは、5月17日、18日以降の旧TG向け外販スポット価格を全油種1.0円引き上げる旨通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

原油コストは値上がり、製品スポット市況は、油種、市場によってバラツキが見られたが全般的に軟調だった。週間のガソリン販売量は、2週振りに100万klを下まわった。

5月第4週(5月18日~25日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5月9日~15日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.5円の値下がり、軽油は1.0円の値下がり、灯油は1.1円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.2円の値下がり、軽油は1.2円の値下がり、灯油は0.2円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.4円の値下がり、軽油が横ばい、灯油は0.1円の値上がりだった。原油価格はほぼ横ばい、為替は円安で、原油コストはやや値上がりとなった。

5月第4週の大手元売の卸価格は、据え置きから1.5円の値下げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (5/9 ~ 5/15)	前週 (5/2 ~ 5/8)	前週比
スポット価格	レギュラー	48.3	49.8	▼ -1.5
	灯油	47.5	48.6	▼ -1.1
	軽油	48.8	49.8	▼ -1.0
(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値][平均]		今週 (5/9 ~ 5/15)	前週 (5/2 ~ 5/8)	前週比
先物価格	レギュラー	48.8	49.2	▼ -0.4
	灯油	45.7	45.6	▲ 0.1
	軽油	48.0	48.0	▶ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/9~5/15実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -1.5	▼ -0.4	▼ -0.9	
灯油	▼ -1.1	▲ 0.1	▼ -0.5	
軽油	▼ -1.0	▶ 0.0	▼ -0.5	
A重油	▼ -0.8			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月15日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円値下がりの132.7円、軽油も前週比0.2円値下がりの111.5円、灯油は前週比0.1円値下がりの77.3円だった。ガソリン、軽油、灯油ともに4週連続の値下がりだった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは5都道県、横ばいは3県、値下がり39府県であった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、岡山県の127.0円(同1.4円安)、次が埼玉県127.4円(前週比1.0円安)だった。最高値は長崎県の140.9円(同横ばい)だった。都道府県別で、最も値上がりしたのは前週比0.7円高の沖縄県(139.2円)、最も値下がりした県は同1.4円安の岡山県(127.0円)、横ばいが長崎県・

山形県・新潟県の3県だった。

原油コストは値下がりし、元売りの卸価格は据え置きから1.0円の値下げで、4週連続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格は値下がり、為替レートの円安が相殺する形で、原油コストは値下がりし、元売会社の卸価格は、据え置きから1.5円の値下げだった。次週(5月22日)のガソリンと灯油の小売価格は、小幅な値下がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)			直近高値	
小売価格	今週 (5/15)	前週 (5/8)	前週比			
レギュラー	132.7	133.1	▼ -0.4	08/8/4	185.1	
灯油	77.3	77.4	▼ -0.1	08/8/11	132.1	
軽油	111.5	111.7	▼ -0.2	08/8/4	167.4	

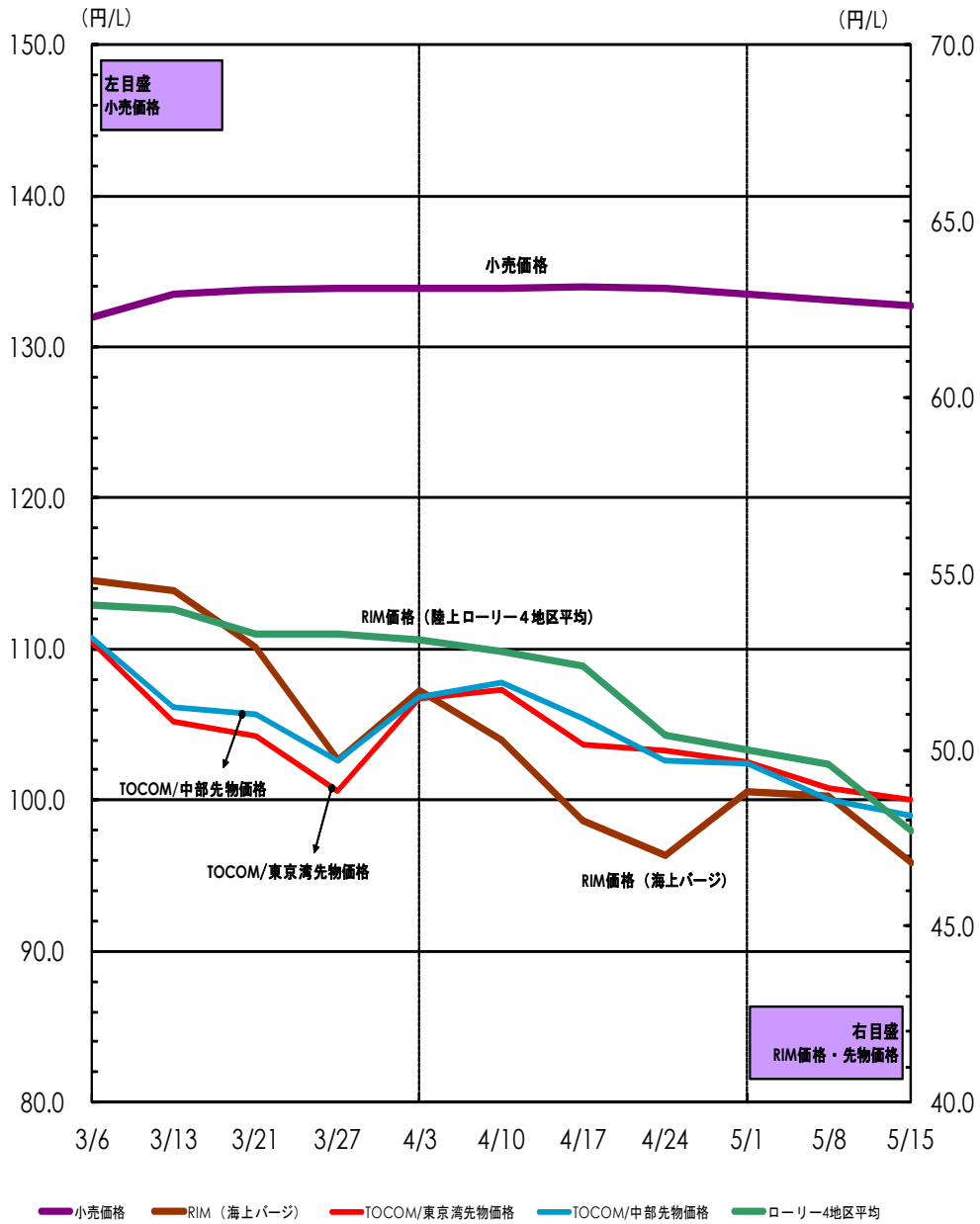
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/3/6 ~ 2017/5/15)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第7号)の公表は、5/26(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成28年9月末現在)は、12月21日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。